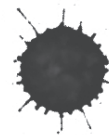


# 原発事故は



苛烈なまでに公平に、  
ふるさと福島から、  
あらゆるものを消し去った。

豊かな山河も、穏やかな生活も、  
楽しい、悲しい、愛しい、苦しい、  
しかしかげがえのない記憶が刻印  
された家々も……そして、なにも  
のにもかえることのできない、一人  
ひとりの身体が息づいていた「ふく  
しま」は、「フクシマ」というひとつ  
の記号になってしまった。

## ふるさととは失われた

……この痛切な悲しみと怒りの言葉  
と写真に、福島在住の水墨画家が、思  
い出をたどりながら美しい絵を添え  
た。本書は失われた故郷への慟哭の書  
であるとともに、原発事故の悲惨を  
訴える告発の書であり、さらに未来へ  
の希望を託した祈りの書である。

2019年9月24日発売

新刊委託締切9月17日

いつもお世話になっております。本書は見計らいでの配本はいたしません。  
ご注文書店様のみ「新刊委託」いたします。大型書店様もご注文ください。ポエムピース

※注文が重複した場合は  
多い方で出荷致します

1500円 上製本  
B5変形 40ページ



絵 朝倉悠三  
1940年生まれ 福島県南相馬市在住・元高校美術教諭、  
全日本水墨画記念展大賞はじめ数多くの受賞歴を誇り、相  
馬市、南相馬市、浪江町などでは公共施設にパブリックアート  
を展開。2011年5月より福島民放にて『震災絵日記』を連載。  
2019年に同社より上梓。全日本水墨画会会員。日本デザ  
イン学会会員。

ことば 齋藤イネ  
昭和23年、私は疎開先である母の実家大玉村で生まれ、母  
カネの一字をとってイネと名付けられました。母を1才半で  
亡くし、東京に戻って10才の時に父も亡くなりました。七人兄  
姉の末っ子として唯一福島県で生まれた私が相馬地方に移  
住し、安達太良山の麓にある両親の墓守りをしているのも偶  
然ではないと思います。だから、東日本大震災で津波と原発  
事故に遭遇した事も、私の運命であったと思っています。

地方・小出版流通センター	
ご担当:	
注文数	冊
<p>ISBN978-4-908827-57-0 C0095 ¥1500E</p> <p>新刊</p> <p>私のふるさと</p> <p>齋藤イネ</p>	
予価 1500円 (本体 1500円 + 税)	

発行 ポエムピース  
FAX03-4243-3913